

金門事件と中国海警の『法執行』： 台湾離島周辺における管轄権挑戦の新常態

はじめに

- 1 中国海警の運用ロジック
- 2 台湾海峡における中国海警の主要な活動
- 3 中国海警活動の含意の分析

おわりに



陳育正
(台湾国防大学副教授)

はじめに

中国は2024年2月以降、海警船を用いて台湾の離島周辺海域への示威・妨害行動を強化し、軍事・準軍事および民間資産を組み合わせ、主権を誇示しつつ台湾に圧力を加えてきた。その一方で、公然たる衝突の発生は回避してきた。筆者の見立てでは、従来、中国は、海警などの公務船による「法執行」という形で、グレーゾーン手段を台湾海峡に体系的に適用することは相対的に少なかった。ところが、2024年2月14日、未登録の中国籍高速艇が台湾の金門周辺の制限水域に侵入し、台湾海巡署の執法船と衝突して、中国側の乗組員2人が死亡した¹。この事件以降、中国海警は、台湾周辺海域での哨戒を強化し、金門・馬祖・澎湖などの離島周辺海域への進入を頻繁化させた。さらに、人民解放軍東部戦区は、2024年5月23日と24日に「聯合利劍：2024A」演習を実施し、中国は、初めて海警を人民解放軍との協同作戰体制に組み込んだ。これは、北京が対台湾威圧行動を拡大する過程における複雑性を示すものでもある²。

法的観点から言えば、金門は中華民国（台湾）の実効的支配下にある

1 〈有關陸籍快艇越界進入金門海域違法捕撈不慎翻覆案，支持主管機關嚴正執法，保護民眾權益〉，《大陸委員會》，2024年2月14日，<https://www.mac.gov.tw/News_Content.aspx?n=05B73310C5C3A632&sms=1A40B00E4C745211&s=56926219E1AA744F>

2 Tzu-yun Su, “The Core Aim of China’s Threat to Taiwan is the Attempt to Move From a Land to Sea Power,” *Prospects & Perspectives*, No. 31, June 5, 2024, <<https://www.pf.org.tw/tw/pfch/13-10741.html>>

領土であり、台湾は、金門周辺海域の管理を主として国内法と執法実務を通じて具体化し、禁止(制限)水域といった制度によって海上秩序を維持している。これに対し、北京政府は、「一つの中国」原則および「主権は不可分である」との言説に基づき台湾の管轄権を否認し、海上における法執行行動を通じて自らの「事実上の管轄」および「行政的プレゼンス」を形成しようとする傾向がある³。したがって、金門事件は、単なる海上衝突事故にとどまらず、海域ガバナンスをめぐる台湾海峡紛争の競争を浮き彫りにする。一方は、法執行を通じて既存の管轄秩序を維持しようとするのに対し、他方は、「権益擁護の法執行」を掲げて従来の暗黙の了解に挑戦し、自らの主張に有利な「実効的支配」の事実を積み上げようとしている。

また、中国海警による台湾への威圧行動は、台湾漁船に対する干渉・嫌がらせを含めて一段とエスカレートしている。とりわけ中国海警は、2024年7月2日、東碇(トンディン)沖で台湾漁船「大進満88号」を拿捕し、北京が台湾周辺海域における主権挑戦をさらに拡大する動きの一環となった。これらの行動は、中国がもはや東シナ海・南シナ海の係争海域での妨害にとどまらず、同様の戦略を台湾海峡の場により直接的に適用し始めていることを示している。

1 中国海警の運用ロジック

従来の一部研究では、中国が海警を権益擁護の手段として運用する主戦場は、東シナ海および南シナ海であり、状況に応じて中国海軍や海上民兵と連携する場合もあると指摘されてきた。中国の公式メディア報道によれば、中国海警局は、人民武装警察部隊(武警)の指揮下に置かれ、組織再編を経て「中国海警局」となった⁴。同組織は、違法な海上活動の取り締まり、海上の公共秩序および国防の維持、海洋資源の開発、海洋生態環境の保護、漁業の管理、密輸の防止など、一連の海上法執行任務を担う⁵。

3 Yu-Cheng, Chen, “PRC’s Gray Zone Activities and Pressure on Taiwan - The Kinmen Speedboat Accident and Beyond,” *Issues & Insights*, Vol. 24, WP. 8 (August 2024), pp. 16-18, <<https://pacforum.org/wp-content/uploads/2024/08/Updated-Combined-II-Aug-2024.pdf>>

4 Joel Wuthnow, *China’s Other Army: The People’s Armed Police in an Era of Reform* (Washington, D.C.: National Defense University Press, April 2019), pp. 9-10, 15.

5 “China Coast Guard Holds Interview on Maritime Law Enforcement,” *PRC’s Office of China Coast Guard Bureau*, Nov. 15, 2021, <https://www.ccg.gov.cn/mhenu/2021/news_

中国海警と海上民兵が軍の指揮体系に組み込まれていることは、海上戦力と武装戦力の統合を反映しており、中国指導部が戦略的手段を継続的に用いていることを示す⁶。北京が南シナ海および東シナ海の係争海域を扱う際、海警や公務船は、一貫して重要な手段となってきた⁷。さらに米国のシンクタンクの研究では、中国海警船が南シナ海の一部係争島礁周辺での活動を増加させる傾向が指摘されている⁸。

中国が海警を用いて対台湾の圧力を高めることは、全面的な武力侵攻と二者択一の対立関係にあるわけではない。前者は、北京が戦略目標を達成するための低リスク手段であり、こうした行動が奏功しない、あるいは台湾の強い抵抗に直面した場合、北京は、より高い烈度の軍事行動へとエスカレートさせる可能性がある⁹。したがって、全面侵攻に至る以前の段階において、中国が法執行船舶を用いて台湾に対処する可能性は高まっている。

例えば、封鎖(blockade)や隔離(quarantine)といった手段を採り、台湾に政治交渉の開始を迫ることが想定される¹⁰、この隔離任務においては、海警の役割がとりわけ重要となる¹¹。このような手法により、中国は比較的低い国際的コストの下で相手のレジリエンスと反応を試しつつ、台湾の管轄権を否認する余地を維持することが可能となる。台湾国防部も、北京が台湾周辺海域で海警や公的船舶を運用する目的は複数に及び、主権の誇示、海上での攪乱、情報収集などが含まれると指摘している¹²。

近年、台湾が直面する中国の威圧手段をみると、「硬軟両様」の圧力は段階的に強まっている。中国は軍事または準軍事的戦力を用いて台湾

release_1115/33.html>

6 Yamaguchi Shinji, Yatsuzuka Masaaki and Momma Rira, *NIDS China Security Report 2023: China’s Quest for Control of the Cognitive Domain and Gray Zone Situations* (Tokyo: The National Institute for Defense Studies, 2022), iv.

7 林正義, 《台海最危険的地方》(新北市: 聯經, 2023年), 154、200-201頁。

8 “All Together Now: China’s Militia in 2025,” *Asia Maritime Transparency Initiative*, Feb 23, 2026, <<https://amti.csis.org/all-together-now-chinas-militia-in-2025/>>

9 Matt Pottinger, *The Boiling Moat: Urgent Steps to Defend Taiwan* (Stanford, California: Hoover Institution Press, 2024), p. 84.

10 Matt Pottinger, *The Boiling Moat: Urgent Steps to Defend Taiwan*, pp. 83-85.

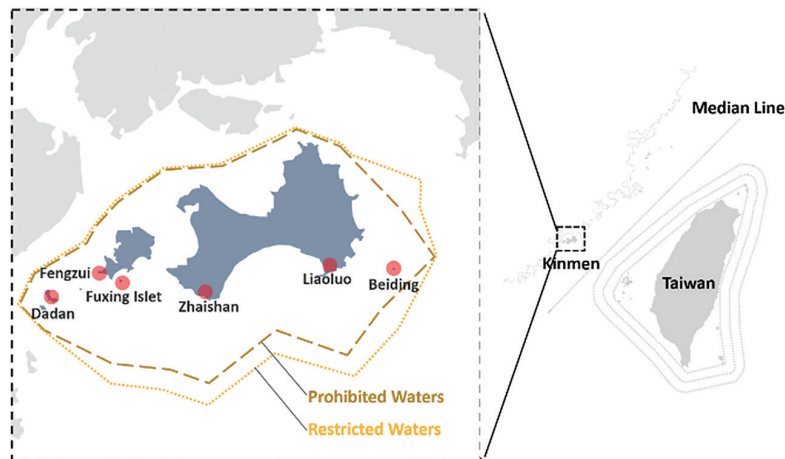
11 Bonny Lin, Brian Hart, Matthew P. Funaiolo, Samantha Lu and Truly Tinsley, “How China Could Blockade Taiwan,” *CSIS*, August 22, 2024, <<https://features.csis.org/chinapower/china-blockade-taiwan/>>

12 Taiwan’s Ministry of National Defense, *ROC National Defense Paper 2023* (Taipei City: Ministry of National Defense, 2023), pp. 41-42.

の海空域を攪乱し、台湾の総合防衛能力を消耗させるとともに、社会の士気を低下させ、さらに台湾海峡の「内海化」を図ろうとしている¹³、台湾国防部が国会に提出した会議報告でも、中国が台湾海峡周辺において公務船舶や漁船などを継続的に運用し、台湾の禁(制)・制限水域に侵入して外(離)島を攪乱するなど、侵擾行動を行っていることが指摘されている¹⁴。

台湾メディアが海巡署の資料として報じたところによれば、2024年2月から2025年8月末までに、中国海警船が金門周辺水域を航行した回数は85航次に達し、月平均4.4航次、1航次あたりの継続時間は約2時間で、月平均では4回を超える。図1は、中国海警が金門の禁(制)・制限水域に進入した位置関係を示している¹⁵。

図1：侵入の相対的位置関係



出典：Yu-Cheng, Chen and K. Tristan Tang, "PRC Expands De Facto Jurisdiction in the Taiwan Strait," *China Brief*, Vol. 24, No. 18 (September 2024), <https://jamestown.substack.com/p/prc-expands-de-facto-jurisdiction>.

- 13 Eric Chan, "Escalating Clarity without Fighting: Countering Gray Zone Warfare against Taiwan (Part 2)," *Global Taiwan Brief*, Vol. 6, Issue 11, June 2021, pp. 2-3; William Chih-tung Chung, "Analysis of Taiwan's Strategy against China's Grey Zone Activities in the South China Sea," *East Asian Policy*, No. 15, 2023, p. 8; 林瀚城, 〈臺灣海峡中線在美中臺的地位〉, 《國會季刊》, 第49卷第3期, 2021年9月, 頁94-95。
- 14 〈國防部業務報告〉, 《中華民國立法院議事暨公報資訊網》, 2024年6月5日, 頁1, <<https://ppg.ly.gov.tw/ppg/SittingAttachment/download/2024053184/65430000700312228002.pdf>>
- 15 〈岡顧兩岸和平, 中國海警隱身暗船再擾金門, 海巡嚴陣以待強力對應來犯〉, 《海洋委員會海巡署》, 2025年4月23日, <<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=164775&ctNode=8195&mp=9996>>; 〈中國海警船頻繁出沒金門水域 海巡全程併航驅離〉, 《中央社》, 2025年9月3日, <<https://www.cna.com.tw/news/asoc/202509030162.aspx>>

2 台湾海峡における中国海警の主要な活動

2024年2月14日、未登録で船名不詳の中国籍民間高速艇が金門周辺の禁止・制限水域に侵入し、台湾の海岸巡防署(海巡署)第九海岸巡防隊による臨検を受けた¹⁶。しかし同艇は、停船して検査に応じず逃走を図り、追跡の過程で衝突が発生した。その結果、中国籍の乗組員4人が海中に転落し、うち2人は搬送後も救命できず死亡した¹⁷。その後、中国の海上法執行機関(海警および海監を含む)は、「法執行」を名目に、台湾の離島周辺海域で常態的な示威・妨害行動を展開するようになった。さらに、海警が海軍と連動した対台湾の指向性を有する合同演習への参加、台湾漁船への妨害や拿捕といった行為も見られた。

(1) 中国海警および公務船による離島周辺での妨害行動の拡大

まず、中国海警は、2024年2月19日、金門と廈門の間の海域で台湾の金厦フェリー観光船「初日号」に乗船臨検を実施し、検査作業は約30分間に及んだ¹⁸。また、中国海警船は、同年2月18日、25日および3月15日に、金門周辺海域で法執行パトロールを実施したと対外的に発表した。2月21日には海警船2隻と海監船1隻が馬祖周辺海域に出現し、そのうち海警船1隻は馬祖・南竿島から最短で約5.5海里まで接近した。

2月26日には中国の海監船1隻が金門付近の禁止水域に侵入し、さらに海警船4隻が制限水域に侵入した¹⁹。加えて、3月15日には中国海警船4隻が再び金門付近の禁止水域に侵入し、台湾海巡署の船艇により退去を求められた²⁰。要するに、中国海警が金門などの海域で法執行パ

16 〈有關2月14日媒體報導「陸籍漁船拒檢追逐翻覆 4人落海釀2死」意外案〉, 《海洋委員會海巡署》, 2024年2月21日, <<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=159732&ctNode=10198&mp=999>>

17 "Death of 2 Chinese men off Kinmen regrettable: Taiwan agency," *Focus Taiwan*, February 15, 2024, <<https://focustaiwan.tw/cross-strait/202402150011>>

18 "Taiwan vessel returns to Kinmen after being boarded by Chinese coast guard," *Focus Taiwan*, Feb. 19, 2024, <<https://focustaiwan.tw/cross-strait/202402190022>>

19 "After incident, Chinese boats patrol waters near Taiwan-held Kinmen," *Focus Taiwan*, February 2024, <<https://focustaiwan.tw/cross-strait/202402190011>>; Matthew Strong, "Taiwan tracks 3 Chinese ships near offshore island of Matsu," *Taiwan News*, Feb. 21, 2024, <<https://www.taiwannews.com.tw/news/5099999>>; Ben Blanchard and Yimou Lee, "Taiwan says 5 China coast guard ships entered waters near frontline islands," *Reuters*, Feb. 27, 2024, <<https://www.reuters.com/world/asia-pacific/taiwan-minister-says-5-china-coast-guard-ships-entered-waters-around-kinmen-2024-02-27/>>

20 "4 Chinese coast guard vessels enter prohibited waters off Kinmen," *Focus Taiwan*, March 15, 2024, <<https://focustaiwan.tw/cross-strait/202403150016>>